

第 1 学年 国語科学習指導案

日時：平成 24 年 10 月 19 日（金）

授業者：横山大祐

場所：1 年 F 組教室（南舎 3 F）

1. 単元名 つながりを読む
教材名 「シカの落ち穂拾い」

2. 指導の立場

（1）教材観

本教材は、宮城県牡鹿半島沖の島、金華山で、ニホンザルが樹上から落とした食物を、ニホンジカが採食する行動（落ち葉拾い）に興味をもった筆者が、その日時・場所・天気や、シカが採食した植物、そのシカの頭数などについて観察し、研究した記録をまとめた文章である。

本文は「観察のきっかけ」「観察から分かったこと」「仮説」「仮説の検証」「考察」の 5 つに分けられ、そのまとまりごとに小見出しが付けられている。これらは、主に「事実」と「考え」に分類することができる。小見出しで言うと、以下の通りである。

事実...「観察のきっかけ」「観察から分かったこと」「仮説の検証」

考え...「仮説」「考察」

筆者は、事実を根拠にして、自分の「仮説」「考察」を書いている。内容を理解し、根拠を明確にした記録の文章を作成するためには、小見出しごとに「事実」であるか「考え」であるかを整理することが必要である。それぞれの内容の中には、事実と考えが混じっているものもあるため、文末表現や、全体の構成などからそれらを見分け、理解を深めていきたい。

また、本教材では、図表が使用されている。図表によって、筆者が研究の過程を説明し、仮説と検証を述べる上で、読者の理解を助けるようにしている。この図表の役割を捉えることも、学習において重要な点となる。まずは、本文が図表中のどの部分に対応しているのかを具体的に把握し、図表と本文との対応関係を適切につかませたい。そして、その図表を提示した作者の意図やその効果について理解し、図表を用いた記録の文章の作成に生かしていけるようにしたい。

（2）児童の実態（男子 15 名 女子 17 名）

学級の様子としては、明るく、素直な生徒が多く、苦手なことがある仲間に対しても厳しく責めず、ともに目標に向かって声を掛け合って努力しようとする雰囲気がある。

しかし、学習に関しては理解に時間がかかる生徒が多い。4 月に行った、小学校の学習内容をもとにした実力テストの国語科の成績は、32 人中 7 人の生徒が 30 点以下という結果であった。0 点、2 点といった、支援を必要とし、1 人では学習が成立しづらい生徒も 2 人いる。

平成 23 年度の学力状況調査においては、説明文の分野で、「展開を確かめながら内容を捉える」ことが苦手であるという結果が出ている。本教材は記録の文章であり、事実と意見を分けて捉えるという点から、記録文と説明文を類似したものと捉えると、この点について指導の際には留意する必要がある。

その観点から本学級の生徒の実態をみたとき、1 学期の「ダイコンは大きな根」「ちょっと立ち止まって」で説明文の学習に取り組んだ際には、次のような学習の様子が分かった。

- ・ワークシートを用いたとき、事実を整理することができる生徒が多い。
- ・図と文章とを関わらせて、事実を正確に読むことができる生徒が多い。
- ・文章の構成について理解している生徒は少ない。

2つの単位において、「内容を捉える」ことに対しては、支援した生徒も含め、32人31人がワークシートに事実を書くことができた。しかし、「展開を確かめる」ことに対しては、それぞれ、構成を理解していた生徒は約半数であった。

こういった実態をもとに、本単元での単元指導計画を立てた。

(3) 指導観

本単元で特に重視したい学習指導要領の「読むこと」に関する1年生の目標と内容は、次の通りである。

目標

目的や意図に応じ様々な本や文章などを読み、内容や要旨を的確にとらえる能力を身に付けさせるとともに、読書を通してものの見方や考え方を広げようとする態度を育てる。

内容

読む - イ 文章の中心的部分と付加的な部分、事実と意見などを読み分け、目的や必要に応じて要約したり要旨をとらえたりすること。

エ 文章の構成や展開、表現の特徴について、自分の考えをもつこと。

書く - ウ 伝えたい事実や事柄について、自分の考えや気持ちを根拠を明確にして書くこと。

これを受けて、特に重視したい単元の目標を、以下のように設定した。

記録の文章の特徴とその効果を理解させる。 (読む エ)

○全体の論理展開を押さえたうえで、それぞれのまとまりごとの内容を理解させる。(読む イ)

○学習した内容を生かし、図表を効果的に用いて、自分についての記録を書かせる。(書く ウ)

なお、本単元での5つの言語意識を、次のように設定した。

目的意識...部活動についての実力を向上させるため、記録の文章を書いて交流する

相手意識...学級(可能な場合は同じ部活動)の仲間

場面意識...記録文の交流会でグループになって交流する

方法意識...図表を用いた記録文を書き、発表する

評価意識...感想を交流し合う

3. 部会テーマに関わって

明日に生きる言語能力の育成

～言語能力の高まりを実感する言語活動の充実を通して～

必然性のある課題と単元構成の工夫

単元の導入では、「実力を伸ばすための部活動についての記録文」を単元出口の言語活動として位置づけた。第1時でその実例を示し、毎時間の読み取りが記録文を書くための方法を知るために必要な内容とする。毎時間の課題も、「記録文を書く」ためのものとするすることで、生徒が必然性をもって学び、学んだことが記録文に生きるようにした。

個への援助の工夫

読み取りにおいては、2種類の支援が必要になると予想される。1つは、図表の内容を読み取ることが難しい生徒への支援である。もう1つは、図表の効果が理解できない生徒への支援である。前者に対しては、例えば図の場合には縦軸と横軸の意味を明記する、といったヒントカードを準備する。後者に対しては、図表が文字で表された場合の例を載せたヒントカードを準備する。これらのヒントカードによって、1人では学習が成立しづらい生徒も言語能力の高まりを感じられるようにしたい。

単元終末の活動を生かした構成の整理

単元の出口の活動として記録文を書くことを設定したことで、記録文の読み取りの際には、内容だけでなく、記録文としての構成や工夫を読み取る必然性ができた。構成に関しては、読み取りの際に「事実」「内容」を整理し、改めて自分で文章を書くことで、記録文の構成についての理解を深めることができると考えた。

指導事項の整理

言語活動の充実のためには、全体の指導計画の中で、いつ、どのような指導を位置づけることができるかを整理することが必要であると考えた。そこで作成したのが、指導事項整理表である。これによって、単元を貫く課題や、毎時間の学習活動がどの指導事項と関わっているのかを確認しながら、見通しをもって単元の指導ができるようにした。

家庭学習と授業との関連

学習活動を効果的に行うために、家庭学習と授業との関連を図った。具体的には、事前の準備がある。単元に入る前に、出口の活動で使用するための部活動の記録を取った。また、文章の読み取りに入る前には、辞書で難易語を調べておくことで、内容理解を助けるようにした。

その際に配慮したのは、個に応じた家庭学習を設定することである。例えば難易語を調べる際には、その範囲を必要最低限の範囲とするか作品全体まで広げるかを選択させ、支援の必要な生徒には、難易語を教師側から提示した。

4. 単元の指導計画と評価規準について

(1) 言語活動

指導事項	イ 文章と図表などとの関連を考えながら、説明や記録の文章を読むこと。
言語活動	図表を用いた部活動の記録文を書く。

(2) 単元指導計画（全6時間）

次	時	ねらい	主な学習活動	評価・留意点
1	1	全文を読み、シカの「落ち穂拾い」の概要を知り、記録文の特徴をつかむとともに、学習内容の見通しをもつことができる。	・人の「落ち穂拾い」について知る。 ・全文を音読する。 ・シカの「落ち穂拾い」の概要をつかむ。 ・物語との比較を通して、記録文の特徴をつかむ。 ・単元を通しての学習内容や単元の出口の活動を確認し、学習計画に見通しをもつ。	物語との比較を通して、記録文の特徴を理解している。 【読む - エ】
	2 【本時】	「観察から分かったこと」を読み、筆者が図表を使った意図やその効果について、自分の考えをもつことができる。	・単元の出口の活動と記録文の特徴を確認する。 ・「観察して分かったこと」を音読する。 ・筆者が調べて分かった事実を整理する。 ・文章のみで書かれている場合や、図のみで書かれている場合と比較することを通して、筆者の意図や図表の効果について話し合う。 ・次時の学習の見通しをもつ。	筆者が図表を使った意図やその効果について、自分の考えをもっている。 【読む - エ】
	3	「仮説」「仮説の検証」「考察」を読み、小見出しごとに事実と意見とを読み分けるとともに、記録文の特徴をまとめることができる。	・単元の出口の活動と記録文の特徴を確認する。 ・事実か考えかを確かめながら、「仮説」から「考察」までを音読する。 ・内容を整理する。 ・小見出しごとに事実と意見とを読み分ける。 ・全体の構成を捉え、記録の文章の特徴をまとめる。	小見出しごとに事実と考えとを読み分けて、整理することができる。 【読む - イ】

2	4	記録文の構成や効果的な書き方を確認し、構成に沿って実例を挙げながら記録文の文章部分を書くことができる。	・第1時～第3時までの学習を振り返り、記録文の構成や、効果的な書き方について確認する。 ・教科書P255『資料の工夫』を読み、図表の使用の仕方について見通しをもつ。 ・記録をもとに、実例を挙げながら、事実と考えを整理して文章を書く。 ・中間交流をし、構成の通りに書けているか、実例が挙げられているかなどを確認する。 ・文章を推敲し、記録文の文章部分を完成させる。	構成にそって、て、実例を挙げながら部活動についての記録文を書いている。 【書く - ウ】
	5	文章の内容をより分かりやすく伝えるための図表を考えて、記録文に対応させた図表を作成することができる。	・教科書P255『資料の工夫』を読む。 ・自分の記録に合わせて、手書きかパソコンかを選択し、図表を作成する。 ・中間反省をし、文章と図表が適切に対応しているか、図表があることで文章が分かりやすくなっているかなどを確認する。 ・図表を用いた記録文を完成させる。	文章をより分かりやすくするための図表を考えて、記録文に対応した図表を作成している。 【書く - ウ】
	6	図表の使い方や根拠の明確さに着目して、仲間の文章を評価することができる。	・図表の使い方や根拠の明確さが交流の観点であることを確認する。 ・グループになって記録文を読み合い、お互いの文章を交流する。 ・記録文を書くことのよさについて話し合う。 ・単元の学習を振り返り、自己評価をする。	図表の使い方や根拠の明確さに着目して、仲間の文章を評価している。 【書く - オ】

5. 本時のねらい

「観察から分かったこと」を読む場面で、文章と図表を対応させながら読み、図表の効果について考えることで、図表があると、文章だけで書かれた時よりも多くの事実を伝え、より文章を分かりやすくさせられることが分かる。

	ねらい	学習活動	支援・援助
つかむ	・前時までの学習を振り返り、単元の出口の活動を意識することができる。 ・本時は、図表を使うことが記録文にどのような効果をもたらすか考えればよいことが分かる。	1. 前時を振り返り、単元の出口の活動や記録文の特徴を確認する。 ・記録文には図表が使われていた。 ・図表があると分かりやすいと思う。他にはどんなよさがあるのだろう。 2. 課題化する。 ・「観察から分かったこと」から考えよう。	・掲示物を利用することで、単元の出口や本時の位置づけを確認したり、記録文の特徴についても想起したりできるようにする。（研） ・前時の学習内容を振り返り、筆者の記録をもとに書かれた文であることを確認し、本時では観察した結果が図表とともに示されていることを確認する。
考える	・音読をして全体で話し合うことで、書かれている事実を確認することができる。 ・個人で図表の効果について考えることで、図表を使う意味について自分の考えをもつことができる。	4. 文章と図表を関連させながら読み、図表の効果について個人追求をする。 文章と図表との関わりを読み取り、図表のよさを考えよう。	・書かれている事実を整理し、どの図表と対応しているかを確認する。 ・プロジェクターを使って図表を拡大し、後の交流で効果を指摘しやすくする。 ・ワークシートを配布し、文章と図表がどのように関わり合っているのかを関連付けながら図表の効果をまとめられるようにする。 ・図表の内容や効果が読み取れない生徒には、図表の意味を説明したヒントカードや文章で書かれた場合を表すヒントカードを配布し、内容を理解できるようにする。（研）
深める		5. 図表の効果について全体交流をする。 ・図表があると、文章だけのときよりもたくさん事実を表せるので、内容が詳しくなり、文章全体が分かりやすくなる。 6. 本時のまとめをする。 図表があると、文章だけで書くよりも多くの事実を伝え、文章を分かりやすくすることができる。	・文章だけで書かれた場合と、図だけで書かれた場合の例を提示することで、文章と図表を関連させてまとめることの大切さを捉えさせる。
まとめる	・全体交流をすることで、図表の効果についての考えを深めることができる。 ・本時の学習内容を振り返り、課題に対する答えを明らかにすることができる。		評価規準 【読む・エ】 図表があると、文章だけで書かれた時よりも多くの事実を伝え、より文章を分かりやすくさせられることが分かる。 （ノート・ワークシート）

1 年生単元指導計画

単元名		つながりを読む		教材の特性	・小見出しがあり，事実と意見を整 理されている。 ・図表が使われている。	言語意識	相手	目的	場面	方法	評価
教材名		シカの落ち穂拾い					学級（可能な場合は同じ部活動）の仲間	実力を向上させるため，部活動の様子について交流する	記録文の交流会でグループになって交流	図表を用いた記録文を書き，発表する	感想を交流し合う
言語活動			活動		図表を使った部活動に関わる記録文を書き，仲間と交流する						
			単元を貫く課題		部活動の実力を向上させるために，部活動の様子をまとめ，仲間と交流しよう						
			次			1			2		
			時			1	2	3	4	5	6
指導事項	C 読むこと	語句意味	ア 文脈の中における語句の意味を的確にとらえ，理解すること			○	○	○			
		文章解釈	イ 文章の中心的な部分と付加的な部分，事実と意見などを読み分け，目的や必要に応じて要約したり用紙をとらえたりすること				○	○			
			ウ 場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み，内容の理解に役立てること								
		考え形成	エ 文章の構成や展開，表現の特徴について，自分の考えをもつこと			○	○	○			
			オ 文章に表れているものの見方や考え方をとらえ，自分のものの見方や考え方を広くすること								
		読書活用	カ 本や文章などから必要な情報を集めるための方法を身に付け，目的に応じて必要な情報を読み取ること。								
	B 書くこと	記述	ウ 伝えたい事実や事柄について，自分の考えや気持ちを根拠を明確にして書くこと						○	○	
		交流	オ 書いた文章を互いに読み合い，題材のとらえ方や材料の使い方，根拠の明確さなどについて意見を述べたり，自分の表現の参考にしたりすること								○